

千代尼 発句集

- ◎ 初空や 手にとる富士の 笑いかな
- ◎ 二日三日 身の添ひかぬる 袷かな
- ◎ 梅咲くや なにが降つても 春は春
- ◎ 轉むでも 笑ふてはかり ひゝな哉
- ◎ 穂に出てや 二見に通ふ 萩の音
- ◎ 鶯や 聲からすとも 富士の雪
- ◎ 恐ろしき よりやもとりて 藤の花
- ◎ 髪を結ふ 手のひまあけて 炬燵哉
- ◎ 一すじに 百合はうつむく はかりなり
- ◎ 梅さくや 水もほとける その日より
- ◎ 花うりも 名にちかつくや 福寿草
- ◎ 竹の音 丸める頃や みそさゞい
- ◎ 吹き寄せて 十にもたらぬ 胡蝶哉
- ◎ 聞いてから 寝られぬよよや ほとゝぎす
- ◎ 聞くのみか 見て鶯の 初音哉
- ◎ 朧夜や 言葉の餘る 渡し守
- ◎ 朝の日の 裾に届かぬ 寒さかな
- ◎ 戸を開けて あれも留守なり 桃の花
- ◎ おされ合ふ てもゝの根を根に 春の草
- ◎ 白妙の いつしか暮れて 花の山
- ◎ 地も雲も 染らぬはなし すみれ草
- ◎ 水雪は 萩はかりにや 今日月
- ◎ 今日来すは 人のあとにか 初櫻
- ◎ みよしのや よその春ほど 飾り花
- ◎ 一すじに 百合はうつむく はかりなり
- ◎ 水の書き 水の消えたり かきつはた
- ◎ 明日の夜は 寝させて呉れよ 郭公
- ◎ 来てもゝ 袋にたらぬ 花野哉
- ◎ おかぬもの 尋ねて雪の 若菜哉
- ◎ 綿ぬぎや 初めて夜着の 恐ろしき
- ◎ 鶯や 吉野の沙汰に 気もつかす
- ◎ 梅の花 咲く日は木々に 雫あり
- ◎ 吹いて来て 付いたようなり 梅の花
- ◎ 初雪は 朝寝に雫 見せにけり
- ◎ 葉も□も ひとつ□や 雪の花
- ◎ 涼しさや 竹はつかりの 事でなし
- ◎ 朝顔は くもの糸にも 咲きにけり
- ◎ よし芦の 穂にあらはれて 二見哉

- ◎ 清水には 裏も表も なかりけり
- ◎ 風ことに 葉をふき出すや 今年竹
- ◎ 雲に届く 近道しつて 柳かな
- ◎ なかぬものと 幾夜かすてし 郭公
- ◎ 鵲や 別れの橋は かけねとも
- ◎ 見送りは 言葉はかりや 羽ぬけ鳥
- ◎ 花や葉に はつかしい 長瓢
- ◎ 涼しさ あるほと出して 鶯の首
- ◎ 若草や またとちらへも かたよらず
- ◎ 男なら 獨りのむ程 清水かな
- ◎ 濁り見て 餘るでもなし 今日日月
- ◎ 百成りや つる一すぢの 心より
- ◎ 山寺や 佛も鹿を そゝのかし
- ◎ 初雁や 通り過ぎて 聲はかり
- ◎ 柳には 雫みしかし 初時雨
- ◎ 明月や 小聲のものゝ 伝ひにくし
- ◎ 蘭の香に 遊ふ日はなし 菊の花
- ◎ 初雪や 見るうちに茶の 花は花
- ◎ 月入りて 聲のあるもの 其さひし
- ◎ 降りさして また幾所かの 面白さ
- ◎ 雉子なくや 思はぬ事も 思ふ頃
- ◎ 藻の花や ぬれずに遊ぶ 鳥は何
- ◎ 若竹や 雀の耳には いる頃
- ◎ 見る人は 餘の気にもあるに 雲雀哉
- ◎ 三つ五つ 迄はよみたる 千鳥哉
- ◎ 水仙や 誠の花は あかつかす
- ◎ 白菊は 何ともなしに すぐれたり
- ◎ 吹々と 花によくなし 鳳巾
- ◎ 鶯や 初音に聞は 幾ところ
- ◎ けふの菊 夜咲ではなが りけり
- ◎ 人足に 鶯も消ゆる 若葉の野
- ◎ はからずも 琴聞く雨の 月見哉
- ◎ 枝川に 日影まつなり 峯の雪
- ◎ 獨り寝の さめて霜夜を さとりけり
- ◎ 朝顔や 己かつるかた 葛に咲